

ellipse

[エリプス]

TOPICS

寄稿レポート

「わたし」にお茶大がくれたもの — あなたにとってはなんですか？

～ 2023年7月1日開催 第25回国際日本学シンポジウムより～

芹澤 良子 氏

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT

夢のつばさ♥プロジェクトニュース

INFORMATION

イベント情報
事務局よりお知らせ

寄稿
レポート

「わたし」にお茶大がくれたもの

—あなたにとってはなんですか？

～ 2023年7月1日開催 第25回国際日本学シンポジウムより～

お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所

比較日本学教育研究部門

アカデミックアシスタント

芹澤 良子 (2012年3月 お茶の水女子大学人間文化研究科 修了)

お茶の水女子大学には、様々な分野の研究所やセンターがあり、情報発信も盛んに行われています。今回は、その中から、2023年7月に開催された国際日本学シンポジウムをご紹介します。

自分が学校から得たものは？—誰も、自分に問いかけたことがあるでしょう。しかしながら、このような形で検討される機会は、これまであまり設けられてこなかったように思います。そこで、本シンポジウムを主催したコンピテンシー育成開発研究所比較日本学教育研究部門の芹澤良子氏に、ダイジェストを寄稿していただきました。

はじめに

お茶の水女子大学（以下、お茶大と略記）は、2025年に創立150周年を迎えます。この間、多くの学生がこの学び舎から巣立っていきました。2023年7月1日に開催した第25回国際日本学シンポジウムでは、本学150年の歴史の主人公である学生の立場から「わたしにお茶大がくれたものとは何か」を考えてみました（図1）。

「総合知」を創出し社会変革をもたらす「コンピテンシー」育成基盤の形成

わたしにお茶大がくれたもの

第25回国際日本学シンポジウム

—あなたにとってはなんですか？—

出発点はいろいろ！ 体験もさまざま！
「わたし」らしい生き方とは何か？ そのヒントを得てみませんか

問題提起 : 芹澤良子・和田華子・加藤厚子
卒業生トーク : 仲田秀・丸田孝子・范淑文・「わたしとお茶大」土屋由里子・原谷子(順不同)
パネルディスカッション (司会・神田由築)

2023年7月1日(土)
13:30~16:00
オンライン(Zoom)開催(要事前予約)

【主催・問い合わせ】 コンピテンシー育成開発研究所
比較日本学教育研究部門
<https://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/index.html>
E-mail: jimu-ccjs@cc.ocha.ac.jp
※お問い合わせはメールでお願いいたします

第25回国際日本学シンポジウム
お茶の水女子大学人間文化研究科 修了

図1 第25回国際日本学シンポジウムポスター(加藤厚子氏作成)

このシンポジウムを主催した比較日本学教育研究部門は、国際的・学際的な情報ネットワークの拠点形成を目的に2004年に発足しました。2022年4月以降は、コンピテンシー育成開発研究所の一部門として活動を展開しています¹。

今回のシンポジウムは、神田由築先生がプロジェクトリーダーを務める研究プロジェクト「お茶大と桜蔭会に関する多角的研究」の成果の一部として実施されました。本プロジェクトは、「卒業生・同窓会・女子大学」の三つの視角から「女子大学の歴史的意義」を考察するもので、先生と三名の卒業生(加藤厚子、和田華子、芹澤良子)によって行われています。今回はキーワードの一つである「卒業生=わたし」を視角に、「大学で得たものとは何か」、そしてそれは、「その後の人生においてどのような意味をもったのか」について検討しました。

わたしにお茶大がくれたもの

—あなたにとってはなんですか？²

「あなたが大学生活で得たものはなんですか?」、「それは、その後のあなたの人生にとってどのような意味をもっていましたか?」。もしそう聞かれたら、あなたはなんと答えますか? 学問の基礎、恩師、友だちなど、たくさん思い浮かぶ

1. 詳しくは、コンピテンシー育成開発研究所比較日本学教育研究部門のホームページ参照 (<https://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/>)。
2. 開催にあたっては、桜蔭会などの同窓会組織、お茶の水学術事業会などに広報を御支援いただきました。厚く御礼申し上げます。

のではないのでしょうか。これから五名の卒業生の方々の大学時代とその後の経験をご紹介しますが、本稿をご覧のみなさんもお自身の学生生活を思い出しながらか読みいただければと思います。

では、当日の様子をプログラムにそってご紹介しましょう³。(図2)

シンポジウムは神田先生の司会のもと、佐々木泰子学長の「開会のあいさつ」から始まりました。佐々木学長は、本学が創立150周年を迎えるにあたり、あらためて原点に立ち返り、くすべての女性に、国籍・年齢などにかかわらず自立した女性として活躍できる場を提供していくという役割を見つめ直すための意味もあり、このシンポジウムが企画されたこと、その趣旨を説明されました。そして、その主人公は、お茶大に学ぶ(学んだ)「わたし」であると述べられました。その上で、わたしの目から見たお茶大とはどのようなものであったのか、それぞれのわたしの人生にとっての大学とはどのようなものであったのか、を考える機会として、このシンポジウムを利用して欲しいと述べられました。

問題提起

まず、「わたしにお茶大がくれたもの」を考えるにあたり、それを読み解くためキーワードである「女子大」、「史料」、「お茶大」からの問題提起が行われました⁴。

最初のキーワード「女子大」については、加藤厚子氏が報告されました。女子大学の募集停止や共学化にともない高まりをみせている「女子大学の存在意義」に関する指摘は、戦後一貫して「問われ続けてきた」問題であると、冒頭、加藤氏は指摘されました。報告では、女子大学をめぐる言説と研究視角を整理し、「女子大学での経験」がもつ意味を分析されました。加藤氏によれば、女子教育をめぐる論調は「特性論」と「保護主義」があり、女子大や女子学生をめぐる言説は社会状況の中で変化してきたといえます。そして女子大学をめぐる研究は、制度や社会的位置づけ、ライフコースの分析などから進められてきました。「大学の意義」に関する調査では、社会状況や人生経験が評価に影響していることが確認されました。加藤氏はお茶大が行った調査で、大学時代の評価が高かった1950～70年代の学生の特徴として、「女子大

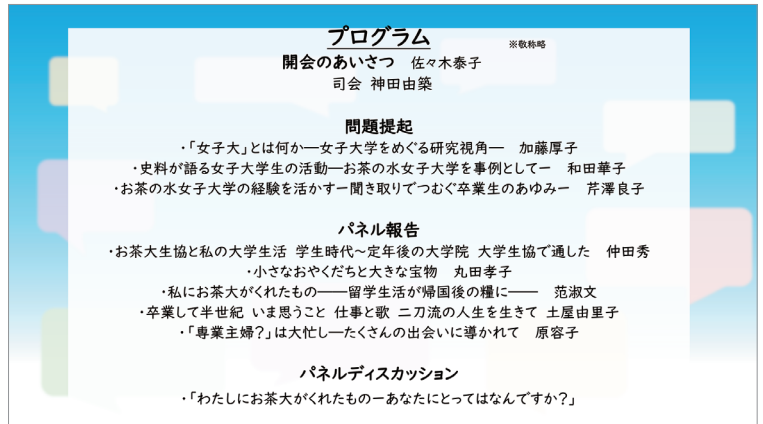


図2

学の存在意義が問われた時期」、「四大卒女性の就労拡大」「仕事と家事の両立」などがあげられるが、その具体像を示すためには文字記録だけでは検討が難しく、重要になるのが卒業生の「証言」であると述べられました。こうした「証言」を積み重ねることは、女子大学が果たしてきた機能を明確化し、さらには「社会貢献」の実態を示すものとなると指摘されました。

次に登壇した和田華子氏は、女子大学生の過去の活動(歴史)を知り、語り継ぐことが可能となる、多様な史料の紹介を行いました。和田氏は、大学の歴史を知るための史料には、大学運営側・学生側の視点の史料とそのほかの史料があり、それぞれ特徴をもっているといえます。そしてこれらの史料に優越はなく、それぞれが相互補完関係にあると指摘されました。この報告では従来、あまり注目されてこなかった学生側の史料であるオーラルヒストリーと同窓会誌に注目し、その重要性を先行研究と他大学の活用事例をもとに言及されました。さらにお茶大図書館所蔵の同窓会誌や回顧録の活用について、「大山寮の寮監制度」を事例に紹介されました。和田氏は、『お茶の水女子大学百年史』と学生の手記を連関させることにより、当時の学生生活への理解が具体的かつ多角的なものとなりうると指摘されました。文書に残らない歴史の解明には、「記憶」を「記録化」するオーラルヒストリーや回顧録が重要であり、これら史料は、卒業生を通じて大学教育や大学生活で得たものとはどのようなものか、そしてそれはどのように社会に還元されたのかを示す証左となると言及されました。

三つめのキーワード「お茶大」については、芹澤が1960年代の社会状況を概説した上で、史学科卒業生約150名を対

3. 本シンポジウムの全容については、『比較日本学教育研究部門 研究年報』第20号をご覧ください(お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所比較日本学教育研究部門『比較日本学教育研究部門 研究年報』第20号、同所、2024年3月刊行予定)。なお本誌は、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションは(TeaPot)で公開予定である。

4. 加藤・和田・芹澤は、日本近代史ゼミ在籍時、指導教官の小風秀雅教授と東京女子高等師範学校卒業生のオーラルヒストリーを実施し、その成果を『お茶の水史学』第51号(2008年)に掲載している。本研究は、その継続事業として行っているものである。

象に実施したアンケートと聞き取りの結果を報告しました⁵。そこから見てきたお茶大生の特徴は二つあります。一つは、学内生活改善活動の推進です。日本社会の至るところで日米安保闘争や学生運動などのデモや運動が発生していた時期もあってか、お茶生も生協の設立、女子寮の新築、学費の値上げなど、自らをとりまく環境の整備に主体的に取り組む様子が確認できました。もう一つは、女性をとりまく変化への対応です。統計的に見れば、専業主婦も多い時代でしたが、多くの卒業生が何らかのかたちで社会参加を続けていました。1985年の男女雇用機会均等法の成立に後押しされたところもありますが、それぞれが女性の地位向上のために力を発揮している様子が明らかとなりました。ほかには、PTA、ボランティア活動など、地域との接点を持ちながら、社会や地域のために活動を続ける卒業生の姿も見うけられました。

卒業生の具体的な活動については、この後のパネル報告を見ていただければと思います。

パネル報告

次のパネル報告には五名の卒業生が登壇し、それぞれにとっての大学時代とその後の人生について報告を行いました。

最初に登壇したのは、1965年に文教育学部教育学科を卒業した仲田秀さんです。タイトルに示されているように、仲田さんはお茶大生協が誕生する年に入学し、1年生の時に生協設立の準備委員に立候補してから、生協一筋に過ごしてきた方です。ご報告によれば、お茶大生協は、「自分たちのために、自分たちにわかるように、自分たちで運営」することをコンセプトに、学生大会、クラス討論、さらには教員との交渉を繰り返しながら、認可、登記を経て誕生しました。この間、仲田さんはクラスの準備委員として、クラスと生協準備委員会をつなぐパイプ役を務めました。生協設立後は、食堂の開設に奔走し、卒業後はお茶大生協をはじめに大学生協の専任職員として定年まで大学生協の仕事を続け、集大成として大学生協に関する論文をまとめられました。この経験を通じて仲田さんは、「自分で考えること」、「協同すること」、「学ぶこと」、「つなぐこと」、「選択の自由と決断」を学んだといいます。そしてこの学びは、仲田さんの人生の土台となっていたと報告されました。

二人目の報告は、1965年に文教育学部体育学科を卒業した丸田孝子さんです。高校卒業後は就職するつもりでしたが、

「寮を完備するお茶大であれば、奨学金とアルバイトで送りなしで進学できる。お茶大の体育科に進学してはどうか」と担任が進めてくれたことをきっかけに、猛勉強の末、お茶大に入学しました。丸田さんが入寮した大山寮は、254名の学生が暮らす「自治寮」で、寮内の「ルール」は寮生大会で決議され、寮委員がその運営を担っていました。丸田さんは、なり手がいない寮委員を二期務めたそうです。全国から集まった学生との寮生活の中で「おしゃれや趣味ばかりを追求することだけではいけない。広い視野から物事を考えることが大切である」と学んだといいます。そして、寮委員を務めた経験は、やがて丸田さんの自信へとつながるものとなったと述べられました。卒業後の丸田さんは、高校の体育科教員となり、女性の少ない職場で実績を積みつつ、地域の女性問題解決にも力を注いでこられました。丸田さんにとっての「人生の根幹」は大学時代に形成され、多くの時間を過ごした大山寮の経験は「大きな宝物」であると結ばれました。

三人目は、留学生の范淑文さんです。范さんが台湾の大学に入学した1970年代は、政治的な要因もあり日本語を学ぶには難しい時代でした。大学で日本語を学ぶ中で、もっと深く学びたいと考え、留学を決意し、指導教員のすすめによりお茶大の修士課程に進学しました。お茶大への留学は、范さんに日本文学の専門知識や研究方法などの学問的な知識にとどまらない収穫を与えたそうです。一例をあげると、人間関係に起因する日本語特有の表現や、日本女性がつまづきやすいことなどです。これらの日常生活の中で身につけた知識は、留学しなければ気づくことのない学びでした。卒業後、台湾に戻ると勉強を始めたころとは状況がかわり、日本語の必要性が増していました。その後、范さんは、大学教員として日本近現代文学や日本語の教育の傍ら、ラジオ放送で日本関連教育番組の司会者として日本と台湾をつなぐ仕事に従事しています。范さんは「人間万事塞翁が馬」という諺を紹介し「くじけそうな状況下でも、決して悪運とは限らない、次の使命、次の任務が待っているという示唆をつくづく感じた」と言及され、「この言葉を後輩の皆さんと分かち合いたい」と締めくくられました。

四人目の報告は、土屋由里子さんです。土屋さんは、1972年に文教育学部史学科を卒業し、大手電機メーカーに就職しました。当時、四大卒の文系女子の就職先は限定的で、入社後の待遇や業務内容も男女で異なっていました。40人程いた同期女性のほとんどが1年足らずで会社を去りましたが、土屋さんは人事制度を利用した資格アップに挑戦し、ソフトな闘志で一つずつ壁を切り拓いていきました。制度上の資格がかわっても、すぐに成績には結びつきませんでした。日々の仕事を進める中で自分の価値を活かす努力を続けていきました。1985年に男女雇用機会均等法が制定される

5. 本調査は、2020年度竹村和子フェミニズム基金の助成を受け、2020年7月～2021年6月にかけて、女性史オーラルヒストリー研究会（芹澤良子、加藤厚子、和田華子）が行ったものである。

際には、組合本社支部婦人部長として社内の啓蒙を推進したそうです。女性にとって均等法成立の意義は大きく、自らの立場を向上する契機にもつながったと土屋さんは指摘されました。会社員時代はつらい時もありましたが、仕事を続ける中で支えとなったのは、お茶大のサークルに起源をもつ芸能山城組の活動でした。土屋さんにとってお茶大の意義は二つあり、一つは男女差別の厳しい会社生活におけるお茶大卒の肩書き、もう一つはお茶大に入学しなければめぐりあわなかった合唱サークルとの出会いでした。土屋さんは、道なき道を歩んできた自身の歩みが、後に続く人々の参考になればと思いますと述べられました。

最後にご登壇されたのは、1972年に文教育学部史学科を卒業した原子さんです。原さんは、卒業後、企業の広報課で3年ほど働き、結婚後は、専業主婦として子育てや介護をしつつ、ボランティアや地域活動などを展開しました。原さんが結婚した時期は、結婚と仕事の両立がまだまだ難しい時代でした。一方、原さんのような専業主婦の中には、活発でエネルギー豊富な女性がたくさん存在し、こういったママ友との活動をきっかけに、本屋の運営やPTA活動など、地域を起点とした取り組みを進めていきました。原さんは、女性を中心としたこのような活動が、学校や地域、生産者を支える役目を果たしてきたのではないかと指摘されました。夫の転勤により仙台に引っ越しした後も、点字図書館ボランティア、PTA活動、桜蔭会宮城支部の活動、家庭裁判所の調停委員、NGOを通じた海外交流など、原さんは暮らしから始まる活動を続けられました。原さんは、「臆することなく人間関係を作るとか、関心をもったり、必要と感じたことに向かって動くという、そういう力が大事だ」と述べ、そして、「このような力を育ててくれたのが『お茶大の学生生活だった』とまとめられました。

パネルディスカッション 「わたしにお茶大がくれたもの —あなたにとってはなんですか？」

次に行われたパネルディスカッションでは、事前に行った二つの質問をもとに議論が進められました。

質問1は、「お茶大や大学院で現在得ているもの、または得たもので自分に影響していると思うものはなんですか？」です。最も多いものは、友人などを含む人間関係で、次が学問的知識・方法、ほかには、人生の指針、環境、資格、ジェンダー観、多様な価値観などがあげられました。

質問2は、「パネルディスカッションで取り上げてほしい話題」です。寄せられた意見を分類すると、「①女性を取り巻く環境」、「②女子大学の存在意義」、「③学生時代のこと」

がありました。「③学生時代のこと」については、既にパネル報告で取りあげましたので割愛し、①と②の二つの論点について議論が行われました。

「①女性を取り巻く環境」については、ワークライフバランスやライフステージの変化にともなう価値観の変化など、女性ならではのライフコースを反映した問題について議論しました。女性をとりまく環境は、場所や構成する人によっても変わってきますが、その場、その場でまわりの人々を巻き込みつつ、自分の信念をもって業務を進めてきた点に共通性が見られました。時代とともに変わる部分もありますが、共通する点は身近な人間関係であることが確認されました。その基盤を作っているのは、大学生活ではないかとの指摘がなされました。また、加速度的に変化する時代の中での気がかりとして、戦争などの社会的状況、ネット社会の中で考えることの難しさなどがあげられました。そして卒にとらわれずに生きることの重要性が指摘されました。

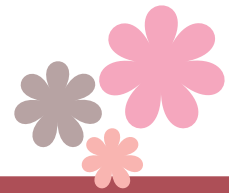
「②女子大学の存在意義」については、子育て支援に代表される時代の流れに対応した運営は、女子大の特徴を示すものであり、柔軟性や調整力は、社会を運営する意味でも大切ではないか、との指摘がなされました。ネガティブな点としては、女子大ならではの偏りの可能性も考えられるが、社会に出てから修正していけるものだと考えられるとの意見が述べられました。

今回は、「わたし」を起点にお茶大とは何かを考えてきました。最後に神田先生から議論の時間をとれなかった「女子大と社会の関係」については、改めて場を設けることにしていきたいと、今後の課題が述べられました。そして未来にむけた提言として、「これからの女子大と社会」をそれぞれが語り、締めくくりとなりました。

おわりに

本シンポジウムでは、「わたし」という卒業生の立場から、その経験とそこから得たものとは何かを検討しました。「わたし」にとっての大学時代の経験は、「わたし」の人生の基盤となるものであり、同時に一人ひとりの「わたし」の経験は重なりあい「わたしたちの」経験として、学生の目からみたお茶大の歴史を紡ぐ史料となっていることが示されました。

大学の歴史を描く史料は複数ありますが、「わたし」の目からみた歴史もまた、大学の歴史を彩る史料のひとつであることを、このシンポジウムを通じて感じていただければ幸いです。「わたしたち」の経験は、これまで問われ続けてきた「女子大学の存在意義」にも、一石を投ずるのものになるのではないのでしょうか。



お茶の水女子大学 イベント情報

2024年3月以降に開催される各種イベントのお知らせです。※いずれも参加費は無料です。
お茶の水女子大学 HP も併せてご覧ください。 <https://www.ocha.ac.jp/>

開催日時	イベント・講座名	備考
3月2日(土) 13:00～15:00	2023年度第15回ブータン連続セミナー 「映像作品を通してブータンの諸相を学ぶ」 —シッキム政務官による記録映像(1930～1940年代)他—	【形式】 Zoomによるリアルタイム配信 【主催】 グローバル協力センター、日本ブータン研究所 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/cwed/event/e20240302.html 【申込み】 https://bit.ly/40M1xg8 【問合せ】 hirayama.takehiro@ocha.ac.jp (グローバル協力センター 平山雄大)
3月2日(土) 13:00～16:00	第3回心理臨床相談センター公開セミナー 【講演】 「親の精神疾患とともに生きる子どもへの支援」 田野中恭子氏(佛教大学保健医療技術学部准教授) 【分科会】 学生・教員による実践・研究の発表／受験生向け 質問会／OG向け交流会／その他	【形式】 オンライン開催(Zoom) 【主催】 お茶の水女子大学心理臨床相談センター 【共催】 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所発達臨床支援研究部門 【詳細】 https://www-p.cf.ocha.ac.jp/d-psy-consultation/other.html 【申込み】 https://us02web.zoom.us/join/register/tZyoc-yopjliEtcGvDV8HnQXdEL4zLmgrt80 【問合せ】 ochaseminar@gmail.com
3月15日(金)	お茶の水女子大学女性学長国際シンポジウム 「アカデミアにおける女性のリーダーシップとDEI～女性学長が目指す21世紀に輝く大学教育～」	【形式】 ハイブリッド(お茶の水女子大学共通講義棟2号館201室& Zoomウェビナー) 【主催】 お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構 【詳細】 【申込み】 https://www.ocha.ac.jp/event/summit2023.html 【問合せ】 gwl-office@cc.ocha.ac.jp
3月17日(日) 10:00～12:20	お茶の水女子大学附属学校園 連携研究 「算数・数学会」 第7回統計教育シンポジウム 「学校の算数・数学で学ぶ統計の“光と影” ～学びにくさ/教えるにくさについて語ろう～」 ・附属小・中・高等学校の教員から実践発表、情報提供 ・学校種別分科会：学校種ごとにブレイクアウトルームに分かれ、当部会メンバーからの提案を基にして意見交換・情報交換を行います。	【形式】 Zoomによるオンライン開催 【主催】 お茶の水女子大学附属学校園 連携研究「算数・数学会」 【共催】 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所人間発達基礎研究部門 【詳細】 https://www.ocha.ac.jp/event/d014121.html 【申込み】 事前申込(3/14まで、当日申込なし) 【問合せ】 info-ieh@cc.ocha.ac.jp (人間発達教育科学研究所事務局)
3月23日(土) 午前の部 9:20～11:35 午後の部 13:00～16:30	第8回 お茶大こどもフォーラム 午前の部 【研究報告】 「保育マネジメント研究会3年間の歩み」 宮里暁美氏(お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄附講座教授) 【シンポジウム】 「ゲームベース・アプローチ(GBA)と保育マネジメント」 Dr. Kanae HANEISHI(米国・ウエスタンコロラド大学教授、リモート参加)、松元剛氏(筑波大学体育系准教授)、水村(久埜)真由美氏(お茶の水女子大学基幹研究院・人文科学系教授) <進行> 宮里暁美氏 午後の部 【分科会1～8】 プログラム↓ https://www.ocha.ac.jp/event/d013917.html #bunkakai	【会場】 お茶の水女子大学構内 【主催】 お茶の水女子大学保育マネジメント研究会 【後援】 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所、SDGs推進研究所 【詳細】 https://www.ocha.ac.jp/event/d013917.html 【申込み】 事前申込(3/16まで) 申し込みフォーム： https://forms.office.com/r/xvMp8VU4wp *午後の部の分科会(1, 2, 5, 6)は専門的な内容となりますので、保育関係者と研究者のお申込みに限らせていただきます。分科会(1, 2, 5, 6)ではお子様の同伴はご遠慮ください。 *災害・感染症の影響で開催内容に変更が生じた場合は、本学ホームページでお知らせします。 【問合せ】 文京区立お茶の水女子大学こども園 E-mail: kodomo-forum@cc.ocha.ac.jp TEL: 03(5978)5127 FAX: 03(5978)5126
3月24日(日) 14:00～15:30	第43回リケジョ - 未来シンポジウム 【講演者】 石田萌子氏(キューピー株式会社研究開発本部) 有澤琴子氏(東北大学大学院薬学研究所助教)	【形式】 ハイブリッド(お茶の水女子大学本館306室& Zoomによるオンライン) 【主催】 お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所 【詳細】 http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/ 【申込み】 HP内の専用フォームにて 【問合せ】 ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp



お茶大女性リーダー育成塾：^{き いん じゅく}徽音塾 2024 年度

社会人向け
講座

詳細と各申込は、徽音塾ホームページ <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/> をご覧下さい。 ※「きいんじゅく」で検索可能です。

2024 年度は、女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座 (E)、お茶大プロフェッショナルレクチャー (P)、ビジネス講座 (B) 各 6 科目です。

【2024 年度 説明会】

※詳細はホームページの「お知らせ」に掲載いたします。

- 日 時：2024 年 3 月 9 日 (土) 午前 11:00 ~ 12:00
- 形 式：Zoom で行います。
※お申し込みいただいた方に URL を事前にご連絡します。
- 参加費：無料 (要申込)
ホームページトップ下部「お知らせ」→「2024 年度徽音塾説明会のお知らせ」→「お申込」からお申し込み下さい。
- 内 容：①徽音塾の概要説明 ※ 2024 年度の特徴についてもご説明します。②塾生の声 ③質疑応答

【2024 年度 開催概要】

時 間	13:30 ~ 16:40 (すべて土曜日)
形 式	オンライン (Zoom) と対面のハイブリッド ※ PC での受講を推奨します ※ 1 科目から受講いただけます ※ 最新情報は HP、X (旧 Twitter) をご覧ください。



【2024 年度開催の講座】

※ 1 科目から受講いただけます。(最新情報は HP をご覧ください)

(E)	5/11	文教大学 教育学部 発達教育課程 教授 成田奈緒子 氏
-----	------	-----------------------------

(E)	5/18	朝日新聞出版 AERA 編集部 編集長 木村恵子 氏
(E)	5/25	富士通株式会社 執行役員 SEVP グローバルソリューションビジネスグループ長 島津めぐみ 氏
(E)	6/29	立命館大学国際関係学部授業担当講師 高島まな 氏
(P)	7/6	お茶の水女子大学理事・副学長 加藤美砂子 氏
(P)	7/13	お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系 教授 鳥田 智 氏
(E)	7/20	東日本旅客鉄道株式会社 (JR 東日本) 常務執行役員 鉄道事業本部副本部長 中川晴美 氏
(P)	7/27	お茶の水女子大学 基幹研究院 人文科学系 浅井佑太 氏
(B)	9/21,28	専修大学 商学部 教授 鹿住倫世 氏
(P)	10/5	お茶の水女子大学文理融合 AI・データサイエンスセンター (AI-DS) 准教授 藤山真美子 氏
(B)	10/19,26	Gallup 認定ストレングスコーチ、国際コーチ連盟 (ICF) アソシエイトコーチ 重次泰子 氏
(B)	11/9,16	株式会社テクノバエナジー研究部主任 松田有希 氏
(B)	11/30,12/7	専修大学 商学部 教授 神原 理 氏
(B)	12/14,21	中央大学 商学部 教授 櫻井康弘 氏
(B)	2/15,22	独立行政法人 労働政策研究・研修機構 (JILPT) 副主任研究員 内藤 忍 氏

※ 2024 年 1 月 25 日時点の予定です。上記に加え、E 講座 1 講座、P 講座 1 講座を開催します。

<お問い合わせ・連絡先>

お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾 事務局
E-mail: kiin-le@cc.ocha.ac.jp

2年ぶりにおかえりなさい

OCHANOMIZU UNIVERSITY

ホームカミングデイ 2024

HOME COMING DAY 2024

2024 年 5 月 25 日 (土)

心に豊かな彩りを ~ 未来につなぐ ~

10:00~10:45 式典 ※卒業生・在学生・教職員のみ

11:00~12:30 全学企画イベント ※一般の方もご参加いただけます

会場 徽音塾(大学講堂)

講演 「夢に向かって進むのみ」
講演者: 松尾葉子氏 (指揮者)
文教育学部音楽科 550 年卒業

演奏会
・卒業生有志によるピアノ演奏会
・芸術・表現行動学科による合唱・独唱コンサート

13:00~17:00 各学部・学科等による企画 ※開催時間は各学部等により異なります
各学部の企画内容は、パンフレットの「学部企画」をご覧ください
※まだあります!

同時開催企画 pickup その他、同日開催企画の詳細はHPに掲載しています

学生アンバサダー

キャンパスツアー

お茶の水女子大学
2025年に迎える150周年記念式典

相模原キャンパス

利用者カード即日発行

歴史資料館

貴重資料の特別展示

大学生協

お茶大グッズ販売

お問い合わせ先
お茶の水女子大学HCD事務局 企画戦略課(広報担当)
TEL:03-5978-5105 FAX:03-5978-5545
E-mail: ocha-hcd@cc.ocha.ac.jp

お茶の水学術事業会よりお知らせ

お茶の水ブックレットシリーズのご紹介

お茶の水女子大学 (附属学校園・同窓会を含む) の様々な活動や研究成果をお伝えすることを目的として発行しています。



- 価格：1冊 550円 (税抜価格 500円・消費税 10%)
※送料、郵便振込手数料は別途ご負担いただけます。
- 第 12 号 「グローバルリーダーとは一今、そして未来に向けてー」 (講演録)
- 第 11 号 「2015 年ノーベル生理学・医学賞受賞 大村智博士講演録 私の半生と出会った女性たち」 (講演録)
- 第 10 号 「キャリア・デザインと子育てー首都圏女性の調査から」 「子の発達段階に応じたキャリア・デザイン」 研究会 (著) 石井クワン子 (監修) 坂本有芳 (編集)
- 第 9 号 「子どもは変わる・大人も変わるー児童虐待からの再生」 内田伸子 (著)
- 第 7 号 「家族と犯罪ー近しい者の憎悪はなぜ?」 (講演録)

【詳細】お茶の水学術事業会 HP
<https://www.npo-ochanomizu.org/product.php#no1>
【ご注文・お問合せ】お茶の水学術事業会 事務局
TEL&FAX: 03-5976-1478 E-mail: info@npo-ochanomizu.org
Amazon でもご購入いただけます。

桜蔭会よりご案内

桜蔭塾

「会員同士が学びあい、教えあう」、「懐かしいお茶の水女子大学の先生がたにご研究のお話をうかがう」、この二つを柱とした桜蔭会の事業です。



● 第22回桜蔭塾講演

「英国女王の品格」多賀幹子氏（ジャーナリスト・桜蔭会会員）

【日時】3月16日（土）14:00～15:30

【会場】国際交流留学生プラザ 4F + Zoom

【受講料】桜蔭会会員：無料

お茶大在学学生（大学院を含む）：無料

非会員：1,000円

【申込締切】3月10日（日）

桜蔭会史上初めて、20～30代で集まるイベントを企画！

● 第1回 同窓生のキャリアシェアリング

～集まれ！20代30代～

【日時】3月17日（日）11:30～14:30

【会場】国際交流留学生プラザ 4F

【参加費】1,000円（昼食付き）

【司会】五戸美樹氏（フリーアナウンサー）

【申込締切】3月10日（日）

こんな方におすすめ

● お茶の水女子大学とコラボ企画

桜蔭塾「オンラインダンス教室」

<https://www.ouinjuku.com/dance>

【講師】水村真由美先生（お茶の水女子大学基幹研究院 教授）

【開催日】月一回 火曜日 11:00～12:00（Zoom）

【参加費】無料

【申込み】随時受付（開催の4日前までにお申し込みください）

● 就活応援・「ZoomでOG訪問」

学生さんお申し込み＆OGアドバイザー募集中！

お茶大を卒業した先輩に就活や入社後のことを聞いてみませんか？

【登録のOGアドバイザー】

編集者・美術館学芸員・弁護士・
文系研究職・理系研究職・国際
機関職員・一般企業・公務員・
キャリアコンサルタント など

学生OG訪問
お申込み



OGアドバイザー
ご登録



- ・年の近い同窓生に会ってみたい
- ・異業種ネットワークを広げたい
- ・先輩の婚活や妊活を参考にしたい

- ・先輩のキャリアプラン・ライフプランを聞きたい

桜蔭塾に参加して

第20回講座

「歌舞伎の創造～河竹黙阿弥、継承と断絶～」

開催日：2023年11月23日

講師：埋忠美沙先生（お茶の水女子大学准教授
専門分野：日本演劇（歌舞伎））

会場：国際交流留学生プラザ 2階 + Zoom

『江戸の黙阿弥～善人を描く』（2020年、春風社）の著者でもある埋忠先生が、歌舞伎の代表的な世話物劇作者 河竹黙阿弥に焦点を当て、「演目の創造の過程」「歌舞伎の近代における継承と断絶」をテーマにお話をしてくださいました。

まず紹介されたのは黙阿弥作品として超有名な、「知らざあ言って聞かせやしょう」の弁天小僧、「こいつあ春から縁起がいいわえ」の三人吉三。どちらも大変よく上演され、知られています。

次に江戸の著名な盗賊、鼠小僧次郎吉が取り上げられました。鼠小僧は、弱きを助け強きを挫く黒ずくめの義賊として、時代劇、映画、演劇、さらにはサンリオのキャラクターにもなっています

が、黙阿弥の歌舞伎作品であったことは全く知りませんでした。江戸末期に初演されて大当たりし、黙阿弥の出世作となったそうです。歌舞伎鑑賞50年の身としては「ガーン！」でした。

ただ、大正以降は歌舞伎での鼠小僧の上演回数は衰退したようです。埋忠先生は、その背景について、明治維新という時代、初演時の役者絵、上演史、代々の演者の芸風の違い、といった観点から丁寧に考察、紐解きをされました。先生が、講義の冒頭に言われた「古典にもそれが現代劇であった時代があるはず」というピュアで鋭い問題意識が感じられ、時として推理小説を読んでいるような感覚を覚えました。

歌舞伎鑑賞の楽しみの第一は、代々受け継がれてきた中で磨き上げられたものに接し酔いしれることですが、今回、研究者としてのアプローチに接し、正に目から鱗、楽しみ方が広がったように思います。

（古庄洋子 昭和54年物理学科卒、お茶の水学術事業会スタッフ）

桜蔭塾 HP の講座報告も併せてご覧ください。

<https://www.ouinjuku.com/no20>

お茶の水学術事業会よりお知らせ

ホームページを全面的にリニューアルしました！

<https://www.npo-ochanomizu.org/>

※ URL の変更はありません。

より使いやすいホームページを目指して、デザインとページの構成を見直し、新規機能を追加しました。また、スマートフォンやタブレットでの表示に対応しましたので、デバイスを問わず、ご覧いただくことができます。

これまで以上に、有益な情報をお伝えできるように努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたNPO法人4団体によって進められている事業です。

2023 クリスマスキャンプ 2023年12月23日～25日

ようやく夢のつばさらしい活動が戻ってきた2023年冬キャンプ(クリスマスキャンプ)には、インフルエンザの流行のために当日の参加者が減ったこともありましたが、子どもたち14名と入れ替わりを含む学生・OGOB/社会人スタッフ42名(合計56名)が、いつもの様に「ブリヂストン奥多摩園」に集まりました。

夏に引き続いてキャンプが開催できましたので、今回は学生スタッフたちが、子どもたちと一緒に手作りゲームを作って遊んでみようという企画を立てました。材料になる段ボールを用意したり、様々な文房具を取りそろえたり、これまでのキャンプのような雰囲気が戻ってきて、みなとても楽しそうに取り組んでいました。実は参加した学生スタッフの人数が足りず、準備をする学生たちが手薄ではないかと案じていましたが、グループになった参加者たちが最初から積極的に提案したり、手を動かしたりして、たちまち形になっていきました。みな成長して(最年少が小学6年生)、楽しみ方も上手になっているようです。次の日には、カードゲームや神経衰弱、大掛かりなパチンコゲーム、対戦型陣地取りゲーム風などが仕上がって、それぞれ楽しく遊んでいました。



今回は、高校・大学受験が近づいた子どもの参加もあったため、学生たちは希望者に個人的な学習指導も行いました。苦手な科目を一生懸命学びが子があり、東京の大学を受験したいという相談に個別に対応する学生もあって、自由時間をいっぱい使って、勉強に取り組む姿も見られました。



恒例のクリスマス会は、まず、奥多摩園レストランの皆さまのお心尽くしの素晴らしいディナーで始まりました。おいしい肉や魚料理があり、楽しいお鍋もあって、きれいに盛られた小皿がいっぱい、デザートケーキもありました。素晴らしい宿舍をこんな良い時期に優先的に提供いただけること、そして、いつも子どもたちのことを考えてくださる奥多摩園のスタッフの方々がいらっしゃるといことがどんなに幸せなことか、「奥

多摩園」に必ず集まれるという幸せを満喫することができました。

クリスマス音楽会は、声楽家の青木寛子さんのコロラチュラソプラノの美しい歌声と、フルートの島田沙織さん、ファゴットの興津諒さんの素晴らしい演奏で、華やかな一夜となりました。演奏の間に、社会人スタッフで音楽家さんを率いてピアニストとして参加された白井優次さんが「クラシックあるある話」で皆さんから楽しいお喋りを引き出してくださって、本当に楽しく心温まる時間となりました。音楽会の終わりには岩手県出身の(?)サンタクロースが登場し、いつものように(株)サンリオから提供いただくプレゼントを子どもたちに手渡ししてくださいました。



サンリオのキャラクターグッズは、毎年子どもたちや学生たちにも好評です。以前いただいた文具やマスコットなどを大事にバッグにたくさんつけて、持って来た女子もありました。同じものを共有しているということが、彼女らに連帯感をもたらしているようです。男子からも「僕だってサンリオのもの好きだよ」という声もあり、いつも必ずプレゼントをいただけることが、「あの時は誰がいて、部屋が一緒の学生は誰で・・・」と大切な思い出になっているとのことで、本当にうれしく思いました。

閉会式では、仲間たちやお世話になった方々へ寄せ書きをしました。高2になった女子が「私も卒業したら学生スタッフになって、夢のつばさの活動を手伝いたいけれど、私の中の年齢の子がもうあんまりいない」と心配していました。今も参加している中学生や小学生が寂しい思いをしないように、楽しい活動を続けていこうと社会人スタッフも気を引き締めています。

2日目にインフルエンザで高熱を出した子どもが出て、社会人スタッフが車で夜間診療に送迎するなどの場面もありましたが、他の子どもや学生・社会人には感染者もなく、無事に活動を終え、それぞれ満足して帰宅していった様子でほっとしました。

多くの皆さまの温かいお心に支えられて、これからも子どもたちの成長に寄り添って参りますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

(夢のつばさ♥プロジェクト)

ご寄付のお願い

【口座】三井住友銀行 大塚支店(店番号227) 普通1284200

【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子 ※夢のつばさ♥プロジェクトの専用口座です。

※恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

連絡先: 事務担当 滝澤公子 TEL&FAX: 03-5978-5362 E-mail: tsubasa@npo-ochanomizu.org

お茶の水学術事業会よりお知らせ**2024年度 共催講演会・助成金事業の申請を受け付けます！**<https://www.npo-ochanomizu.org/kyousai.html>

【対象となる事業期間】 2024年4月1日～2025年3月31日

【申請受付】 2024年4月1日～5月31日

○ 共催講演会ー参加予定人数が50名以上の講演会が対象となります（オンライン、ハイブリッド開催を含む）。

○ 助成金事業ー以下の事業が対象となります。

- (1) 学術・調査・研究・教育等の活動
- (2) 学術関連等の出版事業
- (3) 国内及び海外におけるボランティア活動
- (4) 国際協力研究・教育支援事業
- (5) 保育及び子どもの健全育成のための活動

ご入会・ご寄付を随時受け付けております！

○ 会員区分と会費額

一般（正会員／賛助会員）	年会費 1口 6,000円 1口～
終身（正会員／賛助会員）	入会時のみ 50,000円 (70歳以上の方)
法人会員	年会費 1口 30,000円 1口～

※正会員には議決権があります。

○ 会費・ご寄付のお振込先

【振込先】 ゆうちょ銀行（郵便振替口座）

【口座番号】 00100-3-583029

【口座名義】 特定非営利活動法人お茶の水学術事業会

※ 所得税の寄付金控除の対象にはなりません。

※ ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所（連絡先）をお知らせください。

【ご寄付の報告】（2023年3月～2024年2月）

梅野 きみ子 様 1,279円
 一般財団法人竹村和子フェミニズム基金 様 253,714円
 心から御礼申し上げます。

【ご連絡・お問合せ】

お茶の水学術事業会事務局

Email : info@npo-ochanomizu.org

TEL : 03-5976-1478（月～金 10時～16時）

お茶の水グッズの取り扱いについて

- メール、TEL、FAX、HPの注文フォームでご注文を受け付けます。
- 大学生協でも販売しています。

お茶大ゴーフル

1箱にいちご、ちよこ、ばにらの3種の味が各2袋入っています。

製造者：株式会社 上野風月堂

2004年の発売以来、お土産や大学・附属学校園・同窓会の集まりのお供として、ご好評をいただいているお茶大ゴーフル。

パッケージのデザインには、お茶の水女子大学、附属学校園の校章と校歌「みがくずば」を使用しました。特製菓も入っています。



● 価格：1箱 842円

（税抜価格 780円・消費税 8%・送料別）

※諸般の事情により、2023年11月より販売価格を改定いたしました。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

絵はがき

写真撮影：大塚常樹氏（お茶の水女子大学名誉教授）

● 価格：1枚 88円

（税抜価格 80円・消費税 10%・送料別）

**クリアファイル**

A5サイズ：大学の校章であるお茶の花の写真（大塚氏が学内で撮影）がプリントされています。

● 価格：1枚 110円（税抜価格 100円・消費税 10%・送料別）

A4サイズ：国の登録有形文化財建造物に指定されている大学本館と幼稚園園舎のステンドグラスをイメージし、「Ochanomizu」の文字と大学・附属学校園の校章をちりばめました。



● 価格：1枚 132円

（税抜価格 120円・消費税 10%・送料別）

一筆箋

A4サイズのクリアファイル（紺）とお揃いです。

● 価格：1冊 396円

（税抜価格 360円・消費税 10%・送料別）

**編集後記**

ご多用のところ TOPICS をご執筆くださった芹澤良子氏に深謝申し上げます。「わたし」にお茶大がくれたもの？その最たるものは「お茶の水学術事業会」という場だと思っておりますが、1980年代後半の学生生活を振り返ってみると、「劣等感」もその一つだったような気がします。皆さんはいかがでしょう？

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は2024年6月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問合わせください。

事務局**OPEN 月～金 10:00～16:00**

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3号館 204
 TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : info@npo-ochanomizu.org
<https://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地

東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線

茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線

護国寺駅から徒歩8分

都バス

大塚2丁目バス停すぐ